

鶴岡市総合計画審議会（会議録）

- 日 時 令和4年10月31日(月) 午前10時00分から
- 会 場 東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間
- 委員発言の概要

【第2次鶴岡市総合計画基本計画の評価・検証について】

施策の成果指標（KPI）の評価

- ・進捗評価の原因・要因について、コロナの影響の中でも、8割、9割達成したのであれば、評価が良いとするのか。それともあくまで指標として評価をするのか。今後コロナの影響から回復して事務を続けるのか、実績評価の考え方を統一して記載すべき。
- ・成果指標の進捗状況で評価できなかった3項目について、数値が把握できないものは仕方ないが、今後の見直しに当たって考えなければならない。
- ・コロナという大きなファクターがあったので、それを理由にしたい心理が働くのはよくわかるが、KPIを設けた以上はドライにその数値だけを見て評価をすべき。
- ・特にC評価の29項目について、大小はあるが、どういう要因でそうなっているのか分析が必要で、その評価理由を記載しなければならない。
- ・コロナは、ネガティブばかりに捉えられる傾向があるが、コロナによって進んだこともある。ポジティブな面での分析も必要で、要因分析を精緻に進めていただきたい。
- ・できたことより、何がどうしてできなかったのかの方がずっと大切だ。
- ・見直しに当たっては、達成できないので見直すこともし難いので、現状を冷静に見ながら、要因分析に従い、次の期までにどこまでやれるかという現実的な見直しが必要だ。
- ・評価の大部分にコロナのバイアスがかかっていると思われる。原因、要因を抜き出して、どこにコロナの影響があったのかそれを振り分け、明らかにする作業が必要だ。
- ・コロナからの復活に当たり、評価A、Bの何にもっと力を入れたら、評価Cだったものが戻るどころか、更に伸びるかということをつづけしながら考えていくことが大事だ。

産業の強化

- ・商業関係が非常に低迷しているところが問題だ。
- ・特に末端の部分に対する細かな支援や地元業者に対しての持ち上げ策について、困っている理由を探って何かをしたり、現状を深掘りして未来を導き出すような部分があり見受けられなかった。これが一番大切だ。
- ・製造業関係の数字は、ここ最近上がっているようだが、会社が鶴岡にある工場を分離して本社化したことも影響しているようで、実感としては、それほど上がっていないと思う。
- ・円安の一方で、産業の国内回帰という点からはチャンスでもある。そういった面から、新たな産業団地の構築が非常に重要だ。

社会基盤の強化

- ・高速交通ネットワークの充実について、高速道路、新幹線整備など内陸との格差がとりわけ際立っていると感じている。その格差を早期に解消するように山形県に対して強く求めていくべき。
- ・特に、日沿道の整備促進、庄内空港の機能拡充、滑走路の延長は、今後のコロナ後の経済対策に必要な不可欠なものであるもので、精力的な活動を戦略的に進めるべき。
- ・波及効果の大きいものの一つが高速道路はじめ空港などのインフラ整備。こういった波及効果が

大きいものに着目し、優先順位をつけながら整備をしていく。また、その先の使い方も考えていくべき。このようなことも考えに入れながら後期計画に反映してもらいたい。

まちなかの再生

- ・ 中心市街地の衰退の問題は、一段と深刻の度を増しており、非常に憂慮している。
- ・ 新たな振興対策は、待ったなしのところに来ている。中心市街地活性化に向け、市民が中心市街地に足を運ぶような拠点、仕掛けの整備など、思い切った対策が必須と考えている。これに向けて、官民に挙げての本格的な議論を早急に始めるべき段階だと捉えている。
- ・ 中心市街地のまちのあり方をどのようにしていくかという大きなビジョンが求められると感じている。具体的には、中心市街地に住む人を増やして、人の往来を高めることで、活性化の起爆剤としていく方法があると思う。
- ・ 中心市街地の土地の取引を活発にして、例えば、高齢者や若者向けに利用のある高層集合住宅の建設を加速させるような議論を更に本格化すべき段階に入っているのではないかな。
- ・ 規制要因となっている高さ制限の見直し、緩和などについて、もっと早急に先送りをせずに思い切った議論を始めていただきたい。

農業の人材育成・環境整備

- ・ 今、肥料や畜産飼料が高騰し厳しい。
- ・ 新規就農をやってみたいという人たちの話も時々出てくるが、全然何のあてもない人が入ってきて、1年やそこらでできるものだろうかと本当に不安で見ている。
- ・ 新規就農者には本当に親身になって世話をしてくれる人がいないと、続いていかないと思う。
- ・ Iターン、Uターン者ばかりではなく、家の農業を継ぐときの支援が欲しい。親が子に引き継ぐことを躊躇してる人も多いと思うので、そのあたりの施策を推し進めてもらいたい。
- ・ 『毎日、おいしい。』の総合計画のキャッチフレーズもあるので、農業というものを山形県の一都市として重要視した方がいい。
- ・ 新規就農者が入るのはすごく良い。
- ・ これから、農業も変わっていく。農地の広さ、大型化、技術的にもかなり変わってくるので、今までの農業のやり方から大転換が起こる可能性がある。AI、ITとかそこで対応できるのは若い人材だと思っている。そういう農業を次に継いでいくという施策を入れていくべき。

文化財など地域資源の活用促進

- ・ 文化財の活用というのは本当に難しいとは思いますが、地域活性化、観光振興の核になるものになるのではないかな。観光とのリンク、つながりが必要だと思う。
- ・ 観光振興のところで、『詣でる つかる 頂きます』を柱とした誘客活動の方針に文化財とか歴史文化の要素がないのではないかな。
- ・ 鶴岡の地域特有の歴史とか文化財の要素を、観光の柱の中に一つ入れるような、二つ目の柱、キャッチフレーズも作ってもらえればと思う。例えば、『学ぶ 感じる 極めます』とか次の柱を作り、文化観光という言葉もあるので、是非この鶴岡の文化財を活かしていただきたい。
- ・ 山形県は、農産物の高付加価値化において日本一なので、宮崎県から抜かれないように力を入れてもらいたい。また、それに関連するところから観光にフィードバックをかけていくなど、項目として関連づけていくことが大事だ。

人とのつながり、コミュニティの再構築

- ・ 評価Cに関連する項目で、例えば、自殺とか、人とのつながりが作りづらい状況というのはそこに至ってしまうことになるのではないかと感じた。
- ・ 小学校ではコロナで休校、学年閉鎖になった時にすぐにオンラインをやっていた。コロナをきつ

- かけして、オンラインという形であってもつながれる要素ができています。それを高齢者につなげるのは難しいかもしれないが、一つのきっかけ、アプローチの仕方の一つにはなりえると思う。
- ・人とのつながり、コミュニティの醸成というのをどう醸し出せるかを考えなければならない。

ウィズコロナ・ポストコロナの施策の推進

- ・これから5年間は、ウィズコロナは必須と思われるので、それとどう上手く付き合っていくかを考えなくてはならない。そのためには、どこまで打撃を受けたのかを明らかにし、これを機会にどうステップアップしていくかも考える必要がある。
- ・コロナによって、衰退しようとしている部分がある。言いかえれば、それは変わる要素を持っているということなので、そこに何かの力をかけることによって、全く何か別なものに変えていくというチャンスでもある。

未来創造のプロジェクトのブラッシュアップ

- ・城下町つるおかりブランディングプロジェクトを未来創造のためにもっと有効に機能するように、個別の事業でプロジェクトチームを組むのではなく、市の担当者だけではなく、有識者も交えて継続的なプロジェクトチームを作れば、継続的な話ができると思うので検討いただきたい。
- ・今ひとつ、企業や産業や市民を巻き込むような、大きなうねりのようなものがちょっと感じられない。次の5年間の鶴岡市の目玉として、みんなでつながれるようなプロジェクトを際立たせて、一般市民、企業も巻き込めるようなものが立ち上げられると良い。
- ・女性活躍もそうだが、次の5年間で全部満遍なくやらなければならないことは行政としては当然だが、企業とか市民とか農家とか循環型で、総合計画を機に大きなバブルのように鶴岡が発展していけるようなものが立ち上げられると良い。

まちづくりに関する市民の学びの場の創出

- ・深堀りのところで、みんなで勉強をしないといけないのではないかと感じた。
- ・市民ワークショップでみんなの意見を聞くことも大事だが、みんなで学ぶ、時代が変化して農業も変わる、なぜ自殺率が高いのか、文化財など、みんながもっと理解する勉強会をコロナの影響も含めて、答申までの期間に進められると良い。
- ・審議会委員の専門的な知識や委員にも協力をいただき勉強会を重ねると、見直しにつながると感じた。
- ・これからの5年間、10年間を見通せるような学びの機会が大人も子供もみんな必要だ。